

# W-CDMA携帯機のソフトウェアプラットフォーム

浮穴朋興\* 二村祐地\*\*  
水口武尚\*\*  
小中裕喜\*\*\*

## 要 旨

多様なサービスに対応するW-CDMA(Wideband-Code Division Multiple Access)携帯機のアプリケーションソフトウェアは、高機能化・大規模化が進み、開発・検証に要する工数増大から、限られた開発期間での機能開発・品質確保が困難になっている。本稿では、ソフトウェア開発の生産性を向上しこの課題を解決する携帯機ソフトウェアプラットフォームの構築について紹介する。

携帯機ソフトウェアプラットフォームでは、以下に示す観点から、ソフトウェア開発の効率化に向けた総合的なアプローチを採った。

### (1) ソフトウェア構造の整理

ソフトウェアプラットフォームの中核をなすソフトウェアの基本構造を整理するとともに、各サービス・機能に

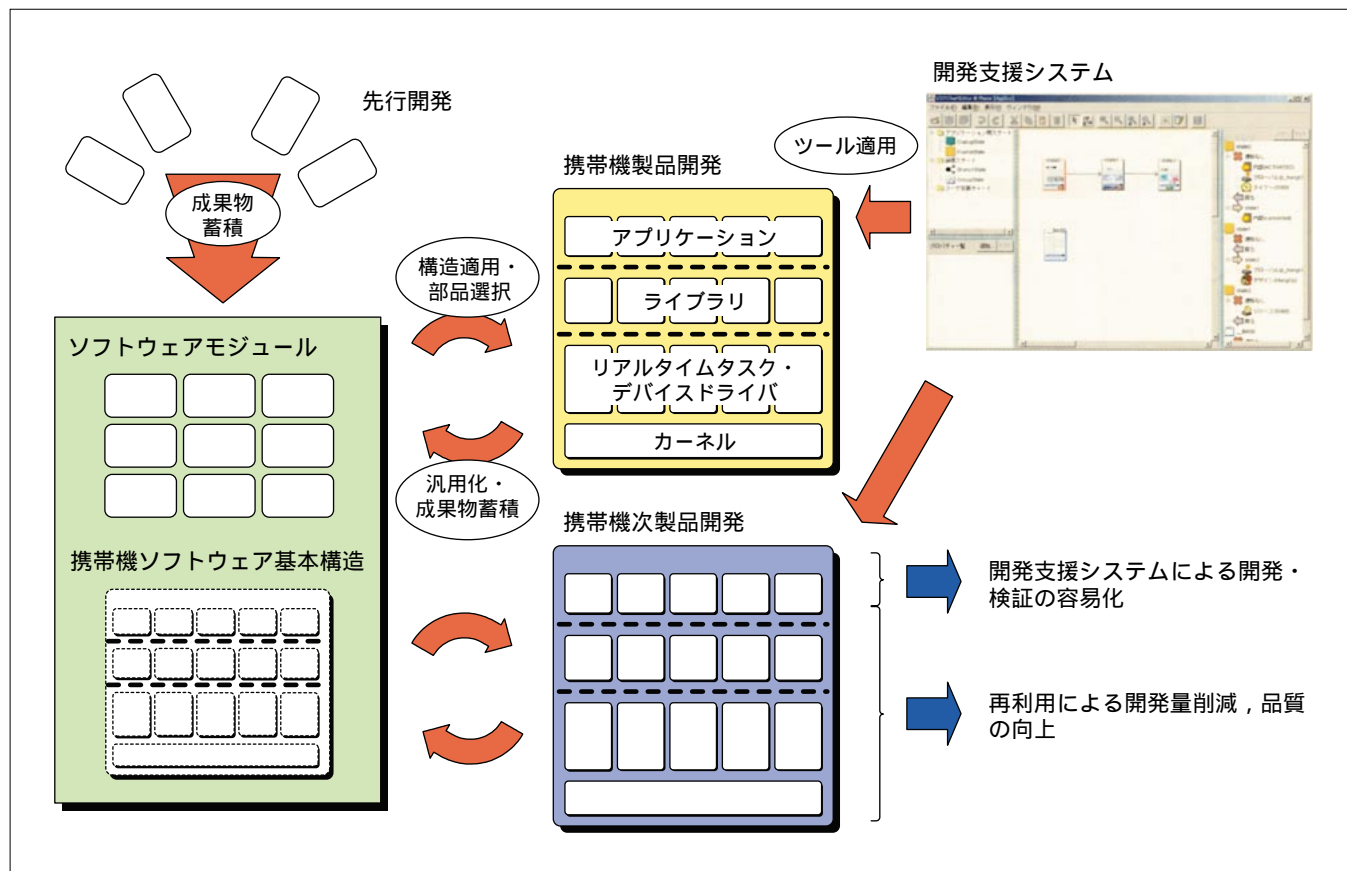
対応するソフトウェアを部品化し個々の製品に依存しない汎用ライブラリとして整備することにより、ソフトウェアの再利用を促進し、製品開発におけるソフトウェア開発量を削減する。

### (2) 開発支援システムの構築

製品ごとに開発・カスタマイズが必要となるアプリケーションユーザーインタフェース部は、設計・開発を容易化するユーザーインタフェース設計ツールと試験自動実行ツールを開発・適用することにより、短期間での開発を可能とする。

### (3) ソフトウェア構成管理の導入

ソフトウェア構成管理システムの導入により、柔軟な開発環境と開発成果の相互活用を可能とする。



## W-CDMA携帯機ソフトウェアプラットフォーム

W-CDMA携帯機へのソフトウェアプラットフォームの適用により、ソフトウェアの再利用を促進し製品ごとのソフトウェア開発量を抑制するとともに、累積試験増大によって品質を向上させる。また、新規開発ソフトウェアの開発・検証を各種ツールによって支援する。これら総合的な取り組みにより、W-CDMA携帯機に必要な大規模アプリケーションソフトウェアの開発に対応することが可能となる。